

優秀賞

## つないだ温かい手

名古屋市立鎌倉台中学校 2年 本間美羽

母の手は私のものではなくなった。もう私だけのものではないのだ。妹が生まれて、歩くようになった頃、幼稚園児だった私は気づいてしまった。寂しかった。少し悔しかった。

私の妹は、母と手をつなぐのが大好き。私も本当は大好きなのに。私は三姉妹の長女。妹が生まれてから母の両手は妹たちのものに。だから、私の手は空いちちゃった。だからといって、父とつなぐのはまた違う。そして妹たちの空いている方の手をつなぐのも嫌だ。なんだか悔しいし、妹たちが母と手をつないで嬉しそうにしているから、余計につなぎたくない。

そんな私が母と手をつなぐのは、妹がいない時。母は、もう大きくなったのにつて笑うけど、私は恥ずかしいとは思わない。母の手はなんでこんなに温かいのだろうか。母と手をつなぐと心がほつとする。不思議だな。

たまに妹たちが母の手が空いていることに気づいていない時、私がさつとつなく。だけど、すぐに妹たちに見つかってしまう。つないだままでいると妹たちがぐずり出す。

「おっ。」

私は渋々母の手を離す。でも妹たちも私と同じなんだろうな、母の手の温かき、その手のすごさを知っているんだろうなと思うと複雑な気持ちになる。

だから、私は考えた。母の手は奪われたんじゃない。私が、母とつないでいた手を妹に渡したのだ。リレーみたいな。なんだか少しうれしくなった。ふと、母と手をつないでいる妹と手をつないでみた。母とは違うけど、楽しい気持ちになった。心も軽くなった。

手をつなぐって何気ないことだけど、うれしい時や楽しい時に手をつなぐともっと明るい気持ちになる。緊張したり辛い時につないでもらうと、ほつとしたり、少し心が落ちつく。手をつなぐだけなのに心もつなぐ感じがする。この先、自分の大切な人とたくさん手をつなぐだろう。温かい手になれますように。